

『颯と流』は、富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

## 地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。1年に6回程度の発行を予定しています。

富士・東部教育事務所地域教育支援スタッフでは、

- (1) 家庭、学校、地域の連携による地域ぐるみの教育活動の活性化を図る。
- (2) 地域における体験活動・ボランティア活動の環境を整備し、地域教育力の活性化を図る。

を目標に掲げ、地域の教育力を高めるためのコーディネーターとして、家庭・学校・地域社会がお互いに連携を深め、青少年の健全育成のため活動しております。

## ～夏休みワクワク体験特集～

自然体験、動物・昆虫とのふれあい、科学の実験！

帝京科学大学

## 帝京科学の夏まつり



### 大きなトカゲに触れるかな？

てよかったです。」「学生さんたちが親切、丁寧でとてもよかったです。」「子どもが一年生であるため、学生さんが話し方を工夫してくれてありがたかったです。」「いろいろな生き物と触れ合って、いままで以上に生き物が好きになりました。」「実験などは学校の授業ではできそうにない楽しい実験ができて、子どもの笑顔がみられました。」「身近にあるものを使った工作もよかったです。」などの感想が寄せられました。子どもたちは、普段見ることのないカイコを手の平にのせ興奮し、その繭玉で工作を楽しみました。また、目の前で行われる液体窒素の実験やDNA抽出実験などに目を輝かせていました。犬やうさぎなどの動物と元気よく戯れ、大きなトカゲをドキドキしながら触る子どもたちの姿は印象的でした。動物と触れ合い、科学の魅力が体験できる貴重な夏まつりでした。



# 親子カルチャー教室

## 富士北稜高校



富士北稜高校(羽田孝行校長)と南都留地域教育推進連絡協議会(小佐野雄也会長)は、7月20日(土)に第17回「親子カルチャー教室」を開催しました。今年は「木工作業でものづくりの楽しさを知ろう」「書道でせんすとうちわをつくろう」「パソコンを使ってオリジナルカレンダーをつくろう」の3つの講座に22組44名の児童と保護者が参加しました。



当日は21名の高校生がミニ先生となり、親切、丁寧に小学生を指導しました。参加した児童・保護者からは、「ほとんど自分でできてうれしかった。そして先生もやさしくてよかった。」「初めての電動ドリルで、慣れないこともあったけど、上手くまっすぐとさすことができた。作り終えたとき、うれしさとたのしさと達成感があった。」「(子どもは)すぐに諦めてしまいがちですが、最後まで一生懸命作業をしてくれました。」「とにかくすべてが楽しかった。ミニ先生が明るく楽しく丁寧に娘に指導して頂き、とても安心して見ていられました。色々な機械も使わせて頂き、とてもビックリしました。」「親子で作業をすることで、キズナを深めることができて良かった。」「子どものいつもと違う所を見ることができて良かった。」「親子で作品を一個ずつ作成でき、もくもくと集中してできました。ミニ先生のおかげで、人見知りの娘が楽しむことができて嬉しいです。」などの感想が寄せられました。親御さんと子どもにとって、夏休みの良い思い出となったようです。

世界に一つのカレンダーができたよ！

# 「チャレンジ！上高アニメーション」

## 上野原高校



上野原高校(小佐野景賀校長)と北都留地域教育推進連絡協議会(江口英雄会長)は、8月2日(金)に上野原高校 図書館において、「チャレンジ！上高アニメーション」を開催しました。上野原市・大月市内の中学生17名(男子2名 女子15名)が参加しました。

上野原高校は、図書委員会を中心に、「他の人の意見を聞き、自分とは違うものの見方や考え方を発見し、思考力や判断力、問題解決能力を身につける」ことを目的に、「読書へのアニメーション」に取り組んでいます。

当日は、アイスブレイクとして「誕生日リング」を行い参加者同士の親睦を図った後、自己紹介を行いました。そして、参加者全員が登場人物役やギャラリー役になり、

アニメーションの司会で質疑応答をしました。セリフや情景描写から人物の心情を想像し、登場人物の気持ちになって答えました。他者の意見に触れることで多角的な読みが可能になり、話し合うことで思考力やコミュニケーション力が育てられた有意義な活動でした。

参加した中学生や学校関係者から、「ペアになって話し合っただけで、自分の考えた質問に違う答えが返ってきたり、おもしろかったです。」「一冊の本でこんなに深く話し合えて、いろいろな人の意見が知れてよかった。」「他校生と交流できて良かった。登場人物になりきって質問に答えることで考えを深められた。」「司会進行の音がしっかり聞こえてよかったです。活発に意見が出ていて年々たのしさが増していると思います。無言での誕生日リングゲームがリラックスできたと思います。いい質問、回答が出て、お互いに楽しく読書を深めることができたと思います。細部にわたり素晴らしい設定をしていただきましてありがとうございます。」との感想が寄せられました。



今年の使用書籍

「狐フェスティバル 瀬尾まいに著」

### アニメーションとは？

スペイン青年雑誌編集長のモンセラ＝サルト氏が開発。グループを作って一緒に考えたり、自分の考えを友達に伝えたりと本を読むことや言葉遊びのおもしろさ、楽しさを体験しながら学ぶプログラム。75の作戦がある。



# ものづくりのおもしろさを体感!!

## 都留興讓館高校 親子ものづくり教室



都留興讓館高校(高野修校長)と南都留地域教育推進連絡協議会(小佐野雄也会長)は、8月10日(土)に第16回「親子ものづくり教室」を開催しました。今年度は、「燃料電池カーの製作」「電子制御ロボカーの製作」「メタルプレートの製作」「透明樹脂を用いたアクセサリの製作及び電子顕微鏡観察体験」の4つの講座に児童・保護者合わせて18組36名が参加しました。また、16名の高校生がミニ先生となって小学生を指導しました。子どもたちは最初細かい作業に苦労していましたが、ミニ先生に親切、丁寧に教えてもらい、楽しく作品を作り上げました。



楽しい、楽しく作品を作り上げました。

参加した小学生や保護者からは、「ハンダ付けがとてもおもしろかった。たくさんのが学べてよかった。電子科のことにすごく興味をもてました。」「ミニ先生の教え方がよく分かりやすかった。」「最新の機材に触れることができ親子で貴重な体験ができました。」「普段触れ合うことのない高校生に子どもたちが教えてもらい楽しそうだった。将来何がしたいという選択の幅がこの教室を通して広がりました。」などの感想が寄せられました。



# ワクドキちゃれんじ!!

## 産業技術短期大学校 小学生ものづくりフェスタ



8月25日(日)に県立産業技術短期大学校(守屋守校長)において「小学生ものづくりフェスタ」が開催されました。ものづくりを通して、親子の絆を強め、子どもの感性を育むことを目的としています。当日は100名を超える親子が、「紙コップでリモコンロボット作り」「発泡スチロールのストラックアウトとペットボトルの空気砲作り」「脳の不思議を体験する錯覚ゴマ・錯覚箱作り」「金属をけずってキャラクタースタンプ作り」「自動ブレーキ搭載! プチ電車作り」のそれぞれのコースに参加しました。



当日は、同校教職員学生・都留文科大学教職員学生・都留市役所職員、のびのび興讓館都留少年少女発明クラブ指導者等、多くの講師による親切な指導で、子どもたちは難しい作業も最後までやり抜くことができました。

当日は、同校教職員学生・都留文科大学教職員学生・都留市役所職員、のびのび興讓館都留少年少女発明クラブ指導者等、多くの講師による親切な指導で、子どもたちは難しい作業も最後までやり抜くことができました。



参加者からは、「家庭ではできないような工作だったので、とても楽しめました。作った後も楽しく遊べるものでとても良かったです。」「子どもと一緒にひとつのものをつくることはとても楽しかったです。説明もわかりやすく、ていねいに教えていただけて良かったです。」などの感想が寄せられました。マスコットキャラクターの“あんど”君も応援に来てくれて、子どもたちは大喜びでした。

あんど君だよ



## 電車の中で交流!!

### 大月市教育委員会 『大月市英語体験活動』



8月7日(水)、大月市教育委員会(小泉克行教育長)が「大月市英語体験活動」を、(株)富士急行、大月市ふじ国際交流会や市内のALTの協力のもと開催しました。大月市内の小・中学生と都留高校の生徒、総勢36名が参加しました。



8月5日(月)、6日(火)の2日間体験活動オリエンテーションを実施し、異校種間のグループ分けやシナリオ作り、発音・会話の練習をしました。当日は、大月駅から富士急

行線に乗車し、車内にいる外国人に折った鶴を渡し、ふるさと大月の良さを伝えました。外国人の方々は優しく、日本の文化に興味を示し、子どもたちと会話を楽しんでいました。子どもたちは、自分の英語が通じたことに嬉しさを感じ、自信をもったようです。

参加した小・中・高校生からは、「私は、英語はあまりとくいではありませんでした。発音はむずかしいし、うまく相手に伝わらないからです。けれど、この活動に参加して、『英語はむずかしい』から『英語は楽しい』ということになりました。」「始まる前は、小中学生をまとめることができるのか、上手に話すことができるのかと多々不安がありました。でも当日をむかえるとそんな不安はすぐに消えて、驚かされることいっぱいありました。小中学生一人一人自分の考えや意見をしっかりとっていて、なおかつまわりのことも把握して行動ができる。そのうえ英語力がとても高くてびっくりしました。」という感想が寄せられました。



## 保養キャンプ 魚のつかみどり・BBQ

### 大月キリストの教会幼稚園 『福島の小中学生と交流!!』



「福島在住の小中学生に自然の中で伸び伸びと夏休みを過ごして欲しい」という願いで、今年も8月18日から5日間、福島の小中学生を山梨に迎える企画が「保養キャンプ・ぐんない」実行委員会主催で計画されました。その中の一日の8月19日(月)、大月キリストの教会幼稚園(渡邊茂理事長)が、大月市真木にある金の森山荘に福島の小中学生17名を招待し、年長児16名が小中学生と交流を図りました。活動には都留文科大学の学生3名も参加しました。

キャンプ場の川にはこの日のために40匹のニジマスが放流されました。子どもたちは水しぶきを上げながら元気にニジマスを追いかけてました。福島の小中学生

が幼稚園児に魚の捕り方を教える微笑ましい場面も見受けられました。子どもたちは捕まえたニジマスを落とさないように両手で掴み、嬉しそうに友達や先生に見せていました。お昼には焼いたニジマスや野菜、焼きそばを美味しく食べていました。午後のスイカ割りでは、園児と小学生の声援が一つとなって森に響き渡りました。曇り空の下、子どもたちにとっては晴れやかで楽しい時間となり、夏休みの良い思い出となったことでしょう。

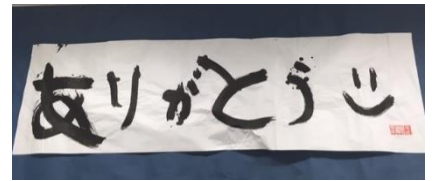


# 第37回 吉田空襲展

～伝えよう戦争 つなげよう平和～

なぜ、吉田は空襲を受けたのか  
世の中の動きに敏感であること  
世の中の動きに疑問を持つこと  
世の中の動きに自分の意見を持つこと

宮下仁先生の「一億総特攻の碑と吉田空襲」講演より



吉田空襲の事実とともに、地域から日本、世界へと目を向け、現代社会の平和への課題について児童生徒・地域に広め、平和実践の交流の場とすることを目的に、第37回吉田空襲展が7月26日(金)から28日(日)の3日間、富士吉田市民会館で開催されました。

「吉田空襲のパネル」「戦時中の遺品」「小中学生の作品と平和ポスター」「特別支援学校の展示」「忠霊塔に関する展示」「日本各地の平和関連施設紹介」「現在の世界情勢」などの展示のほか、「吉田空襲フィールドワーク」「戦時食のふるまい」「高校生による読み聞かせと親子映画会」「ことぶき勸学院のみなさんとのふれあいコーナー」などの企画が行われました。

参加者からは、「戦争の恐ろしさや命の尊さを感じることができました。」「空襲によっておきた被害がこんなに大きいとは知らなかった。」「二度と戦争はあってはいけないと改めておもいました。大変な時代を生き抜いて、現在をつくってくれたことに感謝します。」との感想が寄せられました。



## 合同平和学習

～吉田高校 放送部・都留第一中学校・都留第二中学校～



7月27日(土)吉田高校にて吉田高校放送部と都留第一中学校、都留第二中学校の生徒104名が「ふるさとを愛し、ふるさとから学ぶ」をコンセプトに平和についての学習を行いました。放送部が制作したラジオドキュメント番組(全国大会にて上位20位に入賞)を視聴し、県内に残存する青い目の人形まつわる歴史を学びました。また、放送部員15名により山本美香さんの「これから戦場に向かいます」の群読が行われました。中学生は真剣な眼差しで迫力ある群読に聞き入り、改めて戦争の悲惨さや恐ろしさ、平和を守ることの大切さを痛感していました。



## 第25回 大月空襲 戦争と平和展



8月9日(金)・10日(土)、大月市平和を考える会は、戦争や空襲で多くの人命が奪われた事実を風化させることなく、次の世代に語り継ぎ、平和な世界が訪れることを願い、「第25回 大月空襲 戦争と平和展」を大月市民会館にて開催しました。大月空襲展・特攻関連展(上野原)・戦時中の物品の展示や食事体験、戦争遺跡ハイク、アニメビデオ上映、都留高生による発表会が行われました。また、各小学校での平和学習の取り組みが所狭しと展示されていました。遺跡ハイクでは、子どもたちは大月郷土資料館館長の深澤真先生の案内で都留

高等女学校の空襲跡地や遺髪塚を巡りました。また、戦争体験者の加納健司先生の話をも真剣に聞きました。戦時中の食事体験では、「現在のすいとん」と「昔のすいとん」を興味深げに食べ比べました。戦争について学び多き有意義な時間を過ごしました。





## くぎうちとんとん!!

### 谷村第二小学校 『三吉子ども体験教室』



8月2日(金)、谷村第二小学校(羽田静香校長)にて、都留市生涯学習課主催「放課後子ども教室 くぎうちとんとん」が開催されました。42名の子どもたちが地域の指導員の方々や中学生(職業体験中)の指導の下、普段は使い慣れないトンカチをつかって木工作品を作りました。始めは釘がまっすぐ打てず苦戦していた子どもも徐々になれ、上手にトンカチを使って動物や風車、車や時計台などの作品を熱心に作りま

した。中学生のお兄さんは、「お兄さんおしえて」と子どもたちに声をかけられ、親切に釘の打ち方やボンドの使い方を教えていました。出来上がった作品を前に、子どもたちは満足している様子でした。「さかなつり・さかなのつかみどり」や「ミシンできんちゃく袋を作ろう」「じゃがいもほり・ゆでて食べよう」「プラバン工作」「水遊び・すいかわり」「みづかにある花をいけてみよう!(野菜も使って)」など年間37回このような教室を実施しています。



## ものづくりを通して豊かな感性を!!

### ひばりが丘高校 『創作授業公開』



ひばりが丘高等学校(棚橋雅一校長)の「授業公開」が7月18日(木)に実施されました。「他者と協調して、積極的にものごとに取り組む人間の育成」、「豊かな感性の育成」、「地域の外部指導者とのかかわり合いのなかで、地域に根ざした人間の育成」を目的に、地域の外部講師の指導により、「切り絵」「絵画」「絵手紙」「本づくり」「刻字」「陶芸」「革細工」「折り紙」「卒業制作(木工)」の各講座が開講されました。

卒業制作(木工)では、3・4年次生が4日間かけて、厚生労働省の「ものづくりマイスター」に認定された講師の指導を受け、ブックシェルフを4個製作しました。完成した本棚は、昨年度に引き続き市内の小中学校に贈られます。生徒達はコミュニケーションをとりながら協力して作品を完成させ、ものごとを成し遂げる達成感と他者のためになる喜びを実感していました。また、ものづくりの体験をとおして進路がより明確になった生徒や、新しいことに挑戦する勇気や好奇心が芽生えた生徒もいて、貴重な経験となりました。



【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHPからご覧いただけます。

URL : <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/jouhoushibackn.html> ]

地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めて参ります。各事業についてご意見ご要望がありましたら、地域教育支援スタッフまでご連絡ください。

※連絡先 富士・東部教育事務所 地域教育支援スタッフ TEL : 0554-45-7841